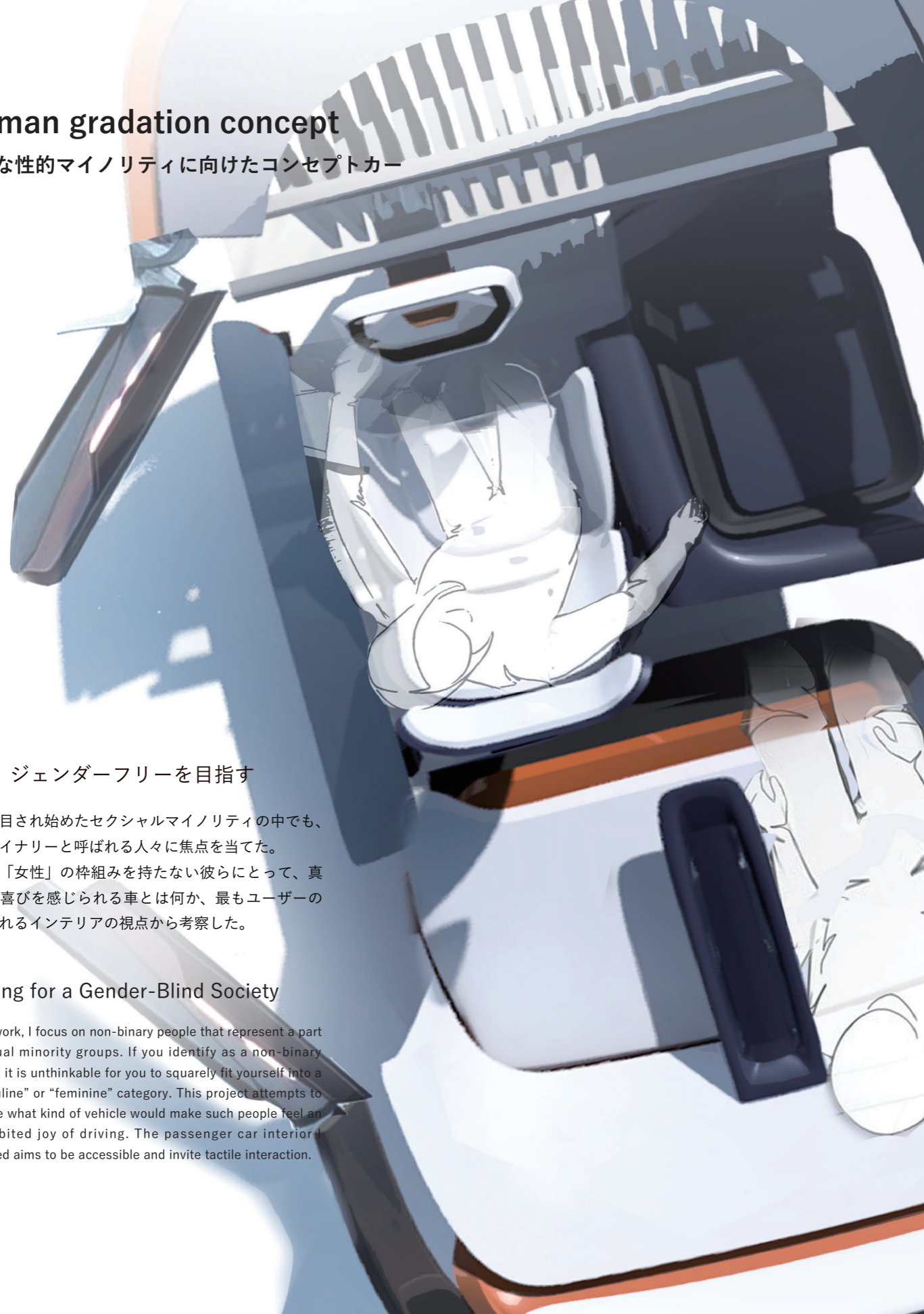


Human gradation concept

多様な性的マイノリティに向けたコンセプトカー



2025 ジェンダーフリーを目指す

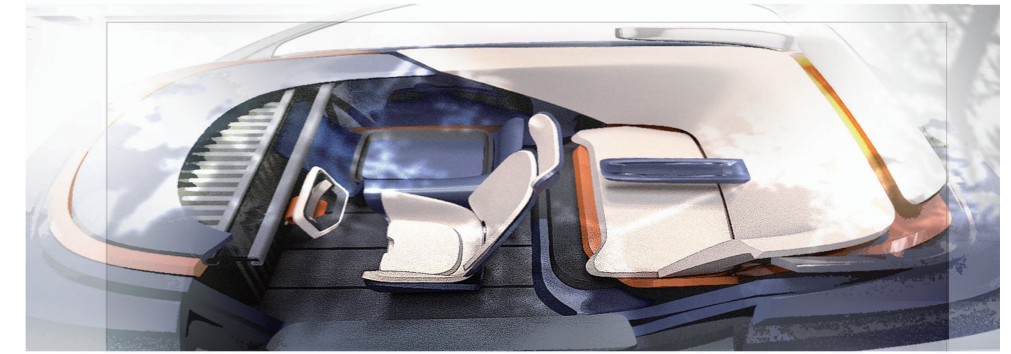
近年注目され始めたセクシャルマイノリティの中でも、ノンバイナリーと呼ばれる人々に焦点を当てた。「男性」「女性」の枠組みを持たない彼らにとって、真に走る喜びを感じられる車とは何か、最もユーザーの手に触れるインテリアの視点から考察した。

Striving for a Gender-Blind Society

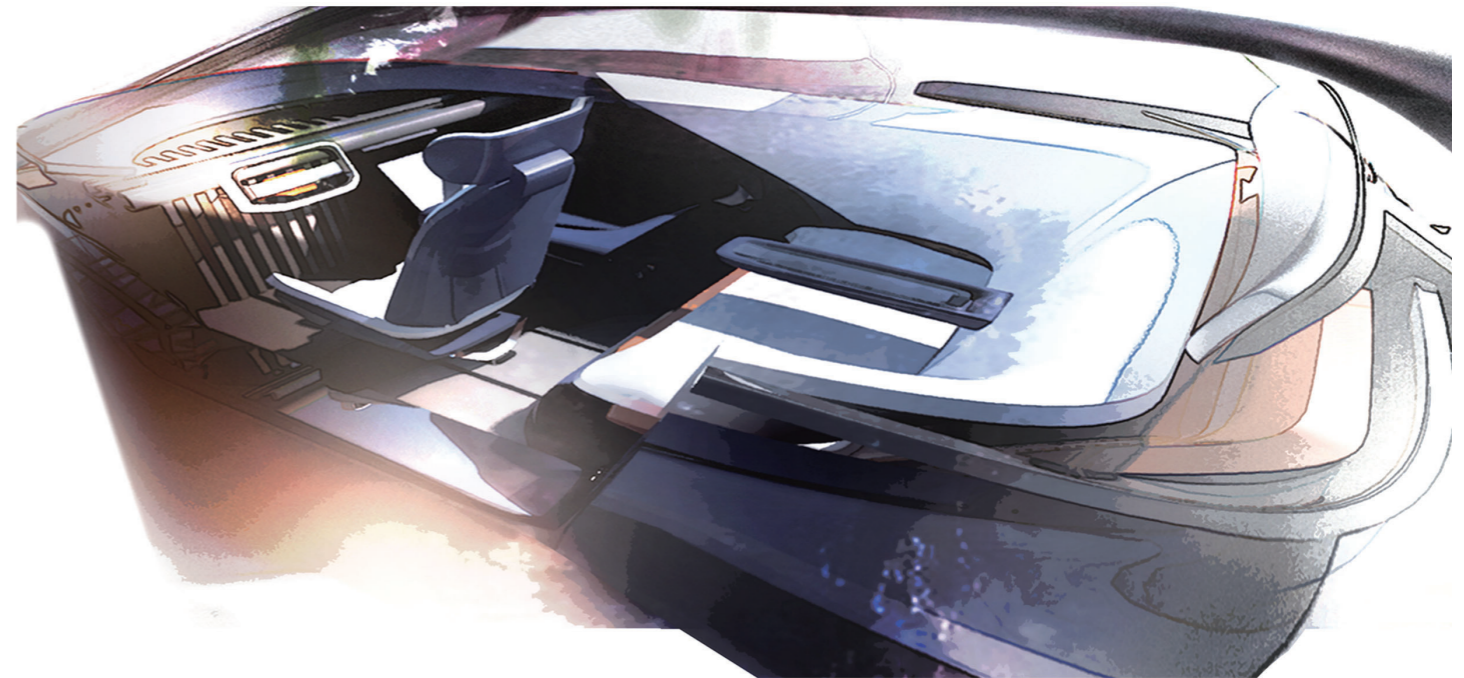
In my work, I focus on non-binary people that represent a part of sexual minority groups. If you identify as a non-binary person, it is unthinkable for you to squarely fit yourself into a "masculine" or "feminine" category. This project attempts to imagine what kind of vehicle would make such people feel an uninhibited joy of driving. The passenger car interior I designed aims to be accessible and invite tactile interaction.



MATERIAL / micro mesh, reversible denim, canvas, nylon



A. EVならではの透明感のあるフラットなインパネにより重苦しくないラフな印象に。
B. ドライバーの手の届く場所にラゲッジスペースを設けることで、ユーザーは自分だけの空間を演出でき安心感を得られる。

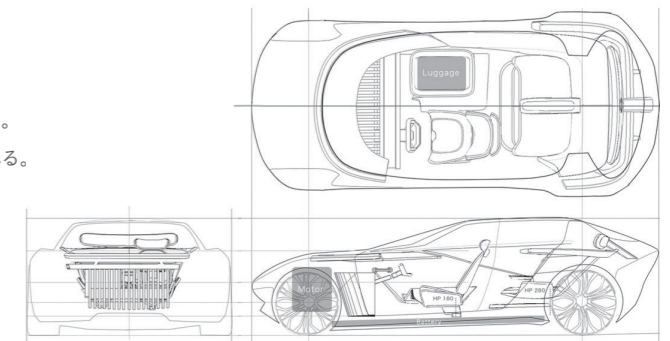


「両立」する造形デザイン

スポーティなドライバーポジションに、肌触りのいい柔らかさを持った造形。固定概念としてある「男性的」「女性的」なものを両立することで今までにない価値観を持たせた。ドライバーが主体でありながらも、全体を分け過ぎないグラデーションのように繋がる大きく柔らかい造形のリアシート。またドアは観音開きになっており、開閉時にユーザーの分け隔てないマインドが現れる。

主体的に運転するためのパッケージ

パッケージでは、フラットな雰囲気を壊さずにスポーティな走りにするためフロントシートのヒップポイントのみ下げた。また心に反して身体が華奢でスポーツカーに乗れなかったユーザーたちに向けて調整されている。



Package/ D 4800 , H 1250 , W 1980